

Jリーグ百年構想クラブ認定に係るJリーグ役員ヒアリング結果

1 日 時 令和3年2月2日(火) 16時～16時30分

※Web会議(Zoom)にて開催

2 場 所 鈴鹿市役所6階 市長応接室

3 出席者 三重県サッカー協会会長 岩間 弘
(株)アンリミテッド 代表取締役 吉田 雅一
執行役員 塩見 大輔
鈴鹿市長 末松 則子
鈴鹿市 文化スポーツ部長 坂 佳徳
スポーツ課長 川出 喜則
4 相手方 Jリーグ専務理事 木村 正明
ほか、鈴木本部長、XXXXXXXXXX

5 内 容

(Jリーグ専務理事 木村)

- ・入会審査をリモートの形式で行うのは初めてであり、不慣れなところもあるが首尾よく進めていきたいのでよろしくお願いします。

(末松市長)

- ・本日は、地元、鈴鹿ポイントゲッターズのJリーグ入りに向けて、このようなヒアリングの場を設けていただき、貴重な時間を頂戴し、感謝を申し上げます。
- ・コロナ禍でスポーツ事情も大変厳しい中ではあるが、私どももこれまで鈴鹿ポイントゲッターとともに歩んできたので、この時間を良い機会としたい。よろしくお願い申し上げます。

(三重県サッカー協会岩間会長)

- ・世の中、コロナで沈んだ状況になっているが、鈴鹿ポイントゲッターズのJリーグ百年構想クラブ認定の明るいニュースを届けたい。よろしくお願いします。

(株)アンリミテッド吉田社長)

- ・コロナ禍の中、皆様、お時間をいただき、感謝申し上げます。

- ・鈴鹿ポイントゲッターズとしては、以前、J 3が出来た頃に一度申請して以来の申請となる。今回はぜひとも合格したいと考えているのでよろしくお願いします。

(Jリーグ ■■■)

- ・ヒアリングに入る前に、このヒアリングの位置付けについて説明をさせてもらう。
- ・Jリーグ入会に向けては大きく3つのステップがある。1つ目はこのJリーグ百年構想クラブに認定されること。2つ目にJ 3クラブライセンスを取得してもらうこと。3番目にJリーグ入会審査を受けていただき、審査を通過してもらうこと。この3つのステップがある。
- ・今回は、百年構想クラブの認定という最初のステップになる。このあとどのように進んでいくかという、百年構想クラブに認定され、J F Lに所属している場合、ポイントゲッターズはJ F Lに所属しているが、その場合、J 3クラブライセンスを取得してもらう必要がある。これは百年構想クラブの認定よりもいくつか高いハードルの項目があり、鈴鹿ポイントゲッターズはJリーグの試合でできるスタジアムで課題が残っていると認識しており、スタジアムの整備をもってJ 3クラブライセンスを取得してもらうことになる。
- ・J 3クラブライセンスを取得していく中で、いくつか入会要件がある。その要件を満たしてもらい、J 3の入会審査を受けてもらう。大きく4つの入会要件があり、1つ目はJ F Lの成績が4位以内、かつ百年構想クラブ上位2チーム以内であること。財務状況で2点あり、2つ目は直近のクラブの収益規模が1.5億円を超えていること、3つ目はクラブが債務超過に陥っていないこと。そして4つ目は、去年はコロナの影響でこの要件を適用しない措置をとったが、J F Lのホームゲームの平均入場者数で2千人を超えること、このような要件がある。今年の入会審査要件は、今月の理事会での決議を予定しており、決まり次第お知らせする。
- ・このような形でいくつかのステップ、ハードルがある中、最初の百年構想クラブの認定ということで手を挙げてもらい、既に事務方で市の部長、課長に市の話を伺い、県サッカー協会は専務理事に話を伺っている状況である。
- ・本日は、地元で大きくサポートをいただいている地方公共団体のトップである市長と、サッカーファミリーである県サッカー協会会長に時間をいただき、お話を伺うということである。
- ・本来であれば直接お伺いし、施設等も拝見しながら話を伺うことを例年実施しているが、このような形で実施することをご了承いただきたい。

(Jリーグ ■■■■)

・まず市長にお伺いするが、鈴鹿ポイントゲッターズの存在、市長から見て鈴鹿ポイントゲッターズをどのように見ているかお聞きしたい。

(鈴鹿市長)

- ・鈴鹿ポイントゲッターズは、前身のランポーレの時代から鈴鹿市サッカー協会とともにチームとして地域に根付いて取り組んできた。その後、アンリミテッド、ポイントゲッターズと名称は変わっているが、母体を大きく拡充しながら、地域の揺るぎないサポーターがたくさんいる中で、ともに大きくなってきたチームと私も認識しており、しっかりと応援をさせていただいている。
- ・サポーターも年々かなり増えてきており、鈴鹿ポイントゲッターズになってからは特に、地域貢献として、子どもたちへのサッカー教室であるとか、小中学校に訪問して指導していただいたり、ジュニア育成にも力を入れていただいている。市のスポーツ教室をお願いしたり、行政にも応援をいただいているチームである。
- ・若手の選手がたくさんいるが、地域のそれぞれの企業で働いてお世話になっている。大きな企業がサポートするというよりは、いろいろな企業が選手、チームを応援するような形で成り立っている。そういう意味では地域に根付いた地域密着型のチームとしてここまで頑張ってきていただいている。
- ・スタジアムについても市民も関心を高く持っており、現在はJFLの試合を市の陸上競技場を私どもで少し整備して使用していただいているが、自前の新しいスタジアムができると、もっと地域と連携がとれると思っているし、施設整備についてもスタート時点からどういう地域で、どういうスタジアムをどのような方針で整備していったらよいかをいっしょに取り組んでいるところである。
- ・そのような中で、サッカー少年団をはじめ、サッカーをしている子どもたちはたくさんいるので、子どもたちが将来、鈴鹿ポイントゲッターズで活躍してもらおうとか、そのような連携をもっとしてもらえるのではないかと期待もしているところである。
- ・スタジアムについては、三重県知事と吉田社長と私で共同記者会見をさせていただいたが、以降、ファンがどんどん増えてきている。いつ建設が始まるのか、いつ試合ができるのか、明るい話題をたくさん持ってきていただいております、地域を挙げて応援しているチームであり、そういう意味では、もっともっと頑張ってもらえるとうれしいと思う。みんなが応援している、そうい

う地域のイメージ，地域密着型のチームである。

(Jリーグ ■■■)

- ・市民，市長をはじめとした行政としても積極的にバックアップをして応援しているという話をいただき，感謝する。
- ・Jリーグに上がっていくと，収益をどのようにしていくのか，選手をどのように獲得していくか，成績に直結する世界に入っていく。Jリーグのクラブの中でスポンサー収入，広告収入が大きく占めている中で，地元の企業は先ほど雇用の面でサポートをいただいているという話をいただいたが，直接的なスポンサーというところも含めて，経済界の反応はどうか。

(末松市長)

- ・たくさんの経済界の皆さま，鈴鹿市はたくさんの大企業があるわけではないが，地元密着している企業，商工会議所もいっしょに応援していただいております，同じ見解を持っていると思っています。
- ・また，吉田社長をはじめ，商工会議所の青年部の活動にも参加をいただき，横の連携も持っており，スポンサーになっていただいている地域の企業もたくさんあるので大丈夫かと思っています。

(Jリーグ ■■■)

- ・岩間会長にお伺いする。昨年，ヴィアティン三重のヒアリングで伺ったことと繰り返しになるが，県内に複数のJリーグ入りを目指すクラブがある中，三重県サッカー協会として鈴鹿ポイントゲッターズにどのような支援を考えているか伺いたい。

(三重県サッカー協会会長)

- ・これは，ヴィアティン三重のヒアリングの際もお伝えしたと思うが，クラブがそれぞれのホームタウンを持って活動をしているので，ホームタウンとしての活動については県サッカー協会として人の面，サービス面など全面的に協力をさせていただく。
- ・ただ，県サッカー協会の立場としては，それぞれ等距離で応援をしていくということを原則として持っているので，仕切りの仕方としてはホームタウンの活動に関しては優先して応援をさせていただく，その他についてはできる範囲で応援をさせていただく関わり方になってくる。
- ・鈴鹿を中心とした地域におけるホームタウン活動については，協会として連携してやっていく。何より鈴鹿ポイントゲッターズについては地元鈴鹿市サ

サッカー協会との連携を強く持っているので、そういう意味では活動に支障はないと考えており、県サッカー協会として応援していくことに変わりはない。

(Jリーグ ■■■)

- ・具体的な話を市長に伺う。スタジアムについては、県知事と一っしょに発表をしてもらい、土地は公、建設資金については鈴鹿ポイントゲッターズ側で用立てていくということで伺っている。
- ・その後の利活用について、お客さんに集まる以外に市民の利用などを想定していると思うが、お考えがあれば伺いたい。

(末松市長)

- ・今建設を予定している場所については、鈴鹿青少年の森という公園である。普段から市民が利活用される場所であり、その一部を利用してスタジアムを建設することになる。
- ・都市公園法に定める公園の施設の設置管理の許可を三重県から本市が受けることで、スタジアムの設置に係る使用料については、現在、免除していく方向で進めている。
- ・また、近隣にはホンダの大きな施設であったり、皆さんご存じの鈴鹿サーキットもあり、そういった施設との相乗効果も期待でき、鈴鹿市としては、ここを拠点としてスポーツ、レジャーを含めた活性化の拠点にしていきたいと考えている。
- ・今後、スタジアムの中で、どういう展開ができるかは、鈴鹿ポイントゲッターズと話も進めていかないといけないと思っている。特に、鈴鹿サーキットでのF1などの開催で利用する公共の鉄道の駅があり、歩いて来てもそんなに遠くない距離でお客様にとっても不自由をかけないで、スタジアムに来ていただけるのではないかと考えている。
- ・そういったことも含め、ここを拠点として、今、県とも共同して、調整を図っているところである。

(Jリーグ ■■■)

- ・別の観点でお伺いしたい。最初に説明をした今年の入場者数のハードルの取扱いについてはまだ決まっていらないが、それがあらずに関わらず、Jリーグに上がっても、できるだけ多くの方にスタジアムに足を運んでいただくことがクラブが成長していくにあたって大きなポイントになるかと思う。
- ・広報、告知であるとか、スタジアムへの集客について鈴鹿市としてサポートいただけることがあればお聞かせいただきたい。

(末松市長)

- ・今までも開幕の試合をはじめ、地元で開催する試合では、私どものほうで広報させていただいたり、ホームページ等で告知もさせていただいている。行政職員でもたくさんのサポーターがおり、サポーターもそういう意味では、しっかりとした組織を作っていただいているので、チームと連携して集客のために協力をしている。今後はもっと力を入れて、どのような広報がよいのか、担当課が考えていきたい。
- ・入場者数2千人については結構高いハードルと思っているが、皆さんといっしょになって応援をしていくということであるので、チームがどんどん強くなっていけば、いろんな試合を観たいという方はたくさんいると思う。いろんな方法を使いながらそういった支援をしていく予定であるので、ご指導もいただければと思う。よろしくお願いします。

(Jリーグ ■■■)

- ・岩間会長にお伺いする。会長から見て鈴鹿ポイントゲッターズが頑張られているところ、それからここはもうちょっと頑張してほしいなというところがあるかと思いますが、クラブに対する課題、期待、要望のあたりについてお考えがあればお聞かせいただきたい。

(三重県サッカー協会会長)

- ・まず、先ほどお話があった観客動員数について、ライバルであるヴィアティン三重と比べると少ないかなという感じを持っている。そういった意味では地域における活動は非常に熱心に行っていただいております、地域に支持もされていると思う。
- ・もうちょっと言えば、まずは強くなることは最低条件であると思うので、JFLに上がって、百年構想クラブの認定をいただいて、上位を争ってJ3に上がれるという見込みが見えてきたときにはかなり盛り上がってくると思うが、今の段階では地域に浸透して活動されている割には集客につながっていないというふうに思っている。
- ・また、PRの仕方も工夫していかないといけないと思っているし、県サッカー協会としても今シーズンについては積極的にアナウンスをしていきたいと思っている。
- ・先ほど、吉田社長に今年のチームはかなり強くなるというふうに聞いたので、そのへんはかなり期待をしている。

(Jリーグ ■■■)

- ・同じ質問を市長にさせてもらう。課題、期待、改善点のあたりについてお考えがあれば聞かせていただきたい。

(末松市長)

- ・今いただいた課題も含め、今後、協議体を設立していこうと考えており、そこには行政として参画してまいりたいと考えている。サポーターの皆さんに頼るだけでなく、私たちも積極的に入り込んで応援をしていくというふうに思っている。そういったことをホームタウンとして、今後作り上げていきたいと思っている。そういったところで皆さんの意見を真摯に聞きながら、という整備、サービスを提供できるかを考えていきたいと思う。

(Jリーグ 木村専務)

- ・早いJ3の昇格を願っている。地域挙げてのサポートをよろしく願いしたい。

(Jリーグ ■■■)

- ・こういった形でヒアリングをさせていただき、まだまだコミュニケーションがとれていないというクラブをこれまでいくつかあったが、市長から非常に温かいお言葉を頂戴して、しっかりとコミュニケーションがとれているなという印象を本日のお話を聞いて感じた。
- ・スタジアムを整備していただき、条件を整えていただき、上に上がれる体制を作ってくださいところで、プロジェクトは進行していると認識している。直近にまた鈴鹿ポイントゲッターズと別途ミーティングを持たせていただく予定をしている。しっかりと進めながら頑張っていたいただければというふうに考えているのでよろしくお願いします。
- ・私どものヒアリングのほうはひととおりの伺いできた。鈴鹿市、三重県サッカー協会のほうでこの機会にJリーグに確認しておきたい点等ございましたらお答できる内容であればお答えしたいと思うがどうか。

(三重県サッカー協会会長)

- ・特に質問はないが、三重県のサッカーファミリーの中で、鈴鹿ポイントゲッターズの百年構想クラブの申請に関してどんな話がなされているかという、先にヴィアティン三重がJ3昇格できる条件を整えた。今回、鈴鹿ポイントゲッターズが百年構想クラブに認定されて、J3のライセンスが獲ることができれば、三重県の中から2つのクラブがJFLで戦って、Jリーグを

目指すという環境になる。

- ・こういう競い合って上がっていくというところは、応援していて一番盛り上がる。こういう環境の中で、サッカーに対する、あるいはJリーグに対する関心をもっと高めていくことができるのではないかと思います。すごく期待をしているところであるので話をさせていただく。

(Jリーグ ■■■)

- ・ありがとうございます。これでヒアリングのほうは終了させていただく。

◎ 17時から行われたメディア対応の中でのJリーグ側の意見、回答など

(Jリーグ 木村専務)

- ・今日はリモートでの百年構想クラブ認定審査の対応が初めてのため、いろいろ不慣れな点があるが、その中、皆さまに感謝を申し上げる。
- ・私どもJリーグとしては、J1、J2、J3で60クラブで打ち止めと考えており、現在57クラブがある。60クラブに達した後は、入れ替え戦のようなものを将来的に考えていきたいと思っている。
- ・これはJリーグ理念にあるスポーツ文化の振興に、各県に1つのJリーグクラブがあることが望ましいと考えている。特に近畿地方は、Jリーグクラブが少なく、現在40都道府県でJリーグクラブが57あるが、まだJリーグクラブがない7県のうち、近畿地方に偏っているという現状がある。
- ・そういった意味でも三重県からJリーグクラブが誕生することは、将来的に非常に待望をしており、ぜひクラブへの地域の方のサポートを期待申し上げる。
- ・他方、コロナの影響もあり、Jリーグの入会要件としては、JFLで4位に入り、かつ百年構想クラブ上位2位以内になること、1.5億円の売り上げがあること、債務超過でないこと、JFLのホームゲームで平均2千人以上の観客数があるが、コロナにより2千人超のハードルはなくしている。
- ・さらに、鈴鹿ポイントゲッターズに関しては、地元のスポンサー収入が少ないということで、脆弱な組織と言わざるを得ない。今後、Jリーグに入会し、その後の成長を考えた場合に、相当な努力が必要になる。今のままでは難しいと思っており、クラブ自身の努力と地域のサポートが必要となってくると思う。
- ・ただし、このステップを踏んで、百年構想クラブに認定され、その後順調に階段を昇られ、いつの日かJリーグに入っていただきたいという希望を持っている。よって今日は数字を見ただけの感想となるが、本日の末松市長、県サッカー協会の会長の非常に熱心な姿勢には感銘をしている。ぜひ地元から素晴らしいJリーグクラブの誕生を期待している。

(市政記者クラブ)

- ・大きく3つ伺いたい。1つめ、Jリーグから見て今日のヒアリングを終えての感想、どのように受け止められたか。
- ・2つめ、スポンサーの話が出たが、今後、地元にどういう点を高めてほしいか。課題などをお聞かせください。
- ・3つめ、認定に至るこれからの道のりについて、2月に理事会があると記憶

しているが、理事会を経て、今月中に回答が得られると受け止めてよろしいか。

(Jリーグ木村専務)

- ・今、おっしゃられた3点は大事な点である。
- ・いわゆるスポーツというものは、例えば、スポンサー1つとっても同じ百万円を頂戴したとすると、インターネット広告とか、テレビ、新聞、ラジオに出した方が広告効果は高く、どうしてスポンサーをしてくださるかという、地域を背負って戦うことに対する何らかの共感、思いに打たれるとか、地域をいっしょになって盛り上げていこうという気持ちの表れがスポンサー獲得につながっていったりする。
- ・当然、選手のプレーをお見せすることによって、お客様が熱を感じて、また試合を観に行くことにつながったり、迫力あるゲーム、例えば、鈴鹿対三重の試合だったら地域の熱も盛り上がるかもしれない。そういったことをテレビやインターネットの視聴を通じて、皆様が興奮する。そういったことがスポーツの生業であるから、実は定量、定性という言葉で言うと、なかなか定量で測れないものがある。人々の熱意で支えられているのがスポーツの源流である。
- ・そういった意味で、私どもJリーグはプロ野球と違い、企業名をクラブ名に入れることを認めていない。よって地域とともにクラブを作っていくという意味では実質の親会社というか、最も大事なものが地域であって、その地域のトップである自治体の組長のスタンスは私どもは非常に気になる点である。
- ・今日は、これまで全クラブの自治体の方とお会いさせていただいているが、末松市長の情熱というものには非常に感嘆したところである。クラブを愛して、市役所の職員の皆さんも非常に鈴鹿ポイントゲッターズを支えていただいているということで、安心したと言え、ちょっとえらそうな言い方になるかもしれないが、正直、ほっとした部分がある。自治体の熱意というものを感じたところである。
- ・2つめのスポンサーであるが、これは地元であっても地元でなくてもいい部分があるが、まずは地元で愛されることが大事になってくる。企業からすると、取引先に対する説明、あるいは、社員の皆さまに給料を増やしたほうが良いという状況に常にさらされているかと思うが、そのような状況の中、地元のクラブにお金を出すという意味は非常に重いものがある。
- ・よって、そのような中、鈴鹿ポイントゲッターズにお金を出してもらう動きは、クラブ自身の努力も大事であるが、鈴鹿市を代表するようなプロチーム

を作るのであれば、経済界の動きも非常に大事になり、現在、J 1, J 2で活躍するほぼ全てのクラブは、商工会議所、経済同友会、商工会連合会や、今日市長の話にもあった青年会議所であるとか、そういった経営者協会、いろいろな経済界の皆さまのサポート、同時に大事なのが地元のメディア様のサポートを受けており、そういったものが非常に大事になってくる。

- ・このあたりが、直接ヒアリングが出来ていないので、ネットなどの情報しかなく、今後期待しているが、現状では少し弱いのかなと感じる。もし将来J 3に上がり、J 2, J 1を目指すのであればかなり弱い。これはステップを踏んで、地域として盛り上げていっていただければと思う。
- ・最後に、認定に至る道のりに関しては、2月25日に理事会がある。できればここで議論をしたいと思っており、この理事会で合否が決定する予定になっている。